

多様性のあるキャンパスでインクルーシブ・リーダーシップを推進する：システム的な視点と実践

研究代表者：立命館アジア太平洋大学 准教授 ROUX Petrus Willem,

研究内容の概要

本プロジェクトは、APUにおける物理的、デジタル的、概念的な空間において、インクルーシブ・リーダーシップがどのように実践され時間の経過とともに発展していくのかに関するものです。システム思考アプローチを活用し、本プロジェクトでは、大学は相互に関連するシステム、大学の内部関係者、外部のステークホルダーが複雑に絡み合って存在し、こうした複雑さは大学という存在を維持・拡大させるために動的に、関連性を持ちつつ、複雑に関わり合っていると仮定しています。このような状況において APU のユニークな特徴を考慮しつつ、本プロジェクトではインクルーシブ・リーダーシップが人々の考えや行動を形成し、変化させる可能性を持つ体系化された原則であると考えています。この研究の核となる問いは、インクルージョンがどのように実践されているかを理解することです。APU というシステムにおいて、それを構成する様々な要素や大学の内部関係者が独創的で価値ある視点を提示していると考えてみましょう。この場合、人に意見を聞いたり、インタビューを行ったり、組織の成果物、メディア媒体、大学の政策、さらには大学の内部関係者や大学内のグループの行動など、様々なデータを集めることによって、APU のシステムに関係する人々の声を代弁することができるようになります。このように APU をシステムと考えたとき、それを構成する様々な要素が時間の経過とともに示すパターン、流れ、交流、固有の力関係を分析することによって、インクルージョンをシステム原理に基づいて概念化し、APU におけるインクルーシブ・リーダーシップを特徴づけ、方向づけることができるようになるだろうと考えています。